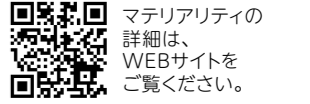


# モスグループのサステナビリティ経営とSDGsへの取り組み

モスグループでは、SDGsに関連するさまざまな商品・サービスの提供やサステナビリティの取り組みを行っています。原点である「モスの心」を変わらぬ指針とし、本業を通じて社会課題の解決に貢献するために、サステナビリティ経営を通じて今後もさらなる取り組みを進めてまいります。



ESG	7つの中核主題	ESG重要テーマ	モスグループのおもな取り組み	マテリアリティ(重要課題)	SDGsの17目標との関連性																			
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
G	組織統治	コーポレートガバナンス	企業統治 内部統制 サステナビリティ経営の推進(社内浸透) グループ全体のリスクマネジメント																	●16.4 ●16.5	●17.16 ●17.17			
		リスクマネジメント	グループ全体のリスクマネジメント データセキュリティとプライバシーの保護(顧客を除く) BCP管理																	○11.2 ○11.5	●13.1	●16.4 ●16.5		
		コンプライアンス	理念体系、行動規範等の管理と啓発																		○10.2 ○10.3	●16.4 ●16.5		
		公正な取引の遵守	取引に関する法令の遵守																		●10.3	●16.4 ●16.5		
S	公正な事業慣行	サプライチェーンマネジメント	CSR調達の推進		○1.1	●2.4							●8.4 ●8.7		○10.2 ○10.3					12.2 12.3 ●12.4 12.5 12.8		○16.5		
			産地支援とモスファーム事業の推進			●2.4								●8.4							12.2 12.3 ●12.4 12.5		●17.17	
	人権	人権	人権の尊重	③ 人材育成と支援					●5.1 ●5.5				●8.5 ●8.8		●10.3									
	労働慣行	人事・福利厚生	法制度改革への対応 福利厚生の充実					●3.a ●4.4 ●4.7	●5.5					●8.5 ●8.8		●10.3 ●10.4								
		従業員の健康・安全	長時間労働の是正・休暇取得の推進 健康経営		③ 人材育成と支援			●3.a ●3.d						●8.8										
		人材育成	人材獲得と退職防止 人材育成、能力開発、キャリア形成、コミュニケーションの強化		③ 人材育成と支援			●4.4 ●4.7						●8.5		●10.3								
			次世代FCオーナー育成					●4.4 ●4.7						●8.5										○17.17
	ダイバーシティ	メンバーの多様性の確保、女性活躍推進		③ 人材育成と支援			●4.5 ●4.7	●5.5					●8.5 ●8.8		●10.3								○17.17	
		心と設備のバリアフリー推進					●4.5 ●4.7								●10.3	○11.7								
	消費者問題	製品の品質と安全性 健康価値(健康と栄養性)	モス食品安全基準などの運用 健康に寄与する食の提供		① 食と健康			●3.d								●9.4						●12.4		
適切な情報公開		商品情報の適切な表示と開示					●3.d														●12.2 ●12.4			
製品の求めやすさ		商品・サービスの価値向上 利便性向上のための店舗インフラ整備		① 食と健康									●8.2	●9.4										
公正なマーケティングと広告		公正なマーケティングと広告																			●12.8	○16.10		
個人情報の保護		データセキュリティとプライバシーの保護(顧客)																				○16.10		
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	コミュニティと地域活動	店舗の地域貢献活動の推進																			○11.a	●17.17		
	コミュニティと産業育成	多様化するニーズに合わせた店舗開発 地域に密着した店舗運営		② 店舗と地域コミュニティ									●8.2 ●8.5	○9.4	●11.7 ●11.a	○12.5						●17.17		
		地域の特産品を活かした新商品の開発					●2.4	●3.d					●8.9	○9.4								○17.17		
コミュニティと環境・文化	食育の推進		① 食と健康			○2.4	●4.4 ●4.5					●8.9												
E	環境	気候変動・大気汚染の防止	エコマーク「飲食店」認定を活用した環境対応 温室効果ガスの排出削減	④ 地球環境			○3.a					●7.3									●12.3 ●12.5	○13.1		
		省エネルギー推進	本社及びチェーン全体の省エネルギーの推進									●7.3									○12.2	●13.1		
	廃棄物とリサイクル	プラスチックと廃棄物対策		④ 地球環境								○7.3		○9.4							●12.2 ●12.5	○13.1		
		食品リサイクルの推進										○7.3									●12.3 ●12.5			
	生物多様性の保全 水の管理	生物多様性の保全 水質保全		④ 地球環境									●6.3								●14.1	●15.4		

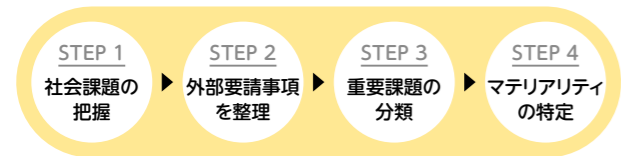
※本マトリックスは世谷秀光氏の監修による ●:おもに関連するSDGs目標 ○:関連するSDGs目標

# モスグループのマテリアリティ (重要課題)

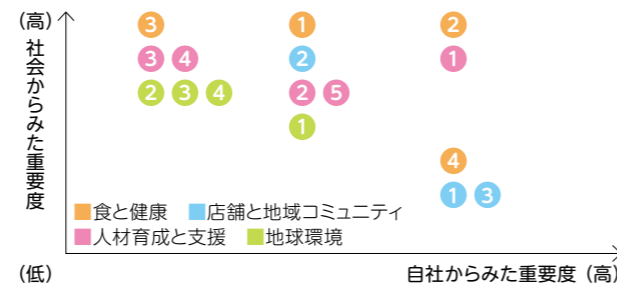
モスグループの各事業を通じて社会課題の解決に貢献するために、環境・社会・ガバナンス (ESG) の観点から4つのマテリアリティ (重要課題) を特定。これにより、サステナビリティ経営を通じてさらなる企業価値の向上を推進していきます。

## マテリアリティの特定プロセス

外部要請事項及び事業活動における社会課題の関連性や重要度を整理し、社会 (ステークホルダー) と自社事業にとって重要性の高いマテリアリティを特定しました。



## マテリアリティ (重要課題) の整理



テーマ	モスグループのおもな取り組み	関連するSDGs	関連ページ
1. 食と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 健康に寄与する食の提供</li> <li>2 モス食品安全基準などの運用</li> <li>3 商品・サービスの価値向上</li> <li>4 食育の推進</li> </ul>		P28
2. 店舗と地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 地域に密着した店舗運営</li> <li>2 多様化するニーズに合わせた店舗開発</li> <li>3 店舗の地域貢献活動の推進</li> </ul>		P29
3. 人材育成と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 健康経営</li> <li>2 人材育成、能力開発、キャリア形成、コミュニケーションの強化</li> <li>3 メンバーの多様性の確保、女性活躍推進</li> <li>4 心と設備のバリアフリー推進</li> <li>5 人権の尊重</li> </ul>		P30
4. 地球環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 温室効果ガスの排出削減</li> <li>2 プラスチックと廃棄物対策</li> <li>3 生物多様性の保全</li> <li>4 エコマーク「飲食店」認定を活用した環境対応</li> </ul>		P31

+

ガバナンス (マテリアリティ推進のための基盤)

## マテリアリティ 1. 食と健康

環境認識	リスク	機会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客さまの健康志向・衛生意識の高まり</li> <li>・飲食店HACCP<sup>®</sup>義務化などの法整備強化</li> <li>・国際情勢の緊迫や多発する異常気象、気候変動などによる主要原材料や物流費の高騰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗営業における衛生問題 (危険異物の混入、食中毒の発生) による営業停止</li> <li>・工場での食品事故による店舗に対する商品供給の停止</li> <li>・食品事故などの発生による社会からの信頼喪失と企業価値の低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点的なリスク対策による、衛生問題などの継続的な抑制及び食の安全・安心ブランドの確立と競争優位性の確保</li> <li>・当社グループにおける持続的な食品安全レベルの向上</li> <li>・多様化する食のニーズへの対応による、市場規模の拡大</li> </ul>

※事業者自らが食中毒や異物混入などの危害要因 (ハザード) を把握し、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で特に重要な工程を継続的に監視・記録する衛生管理の手法です。

テーマ	モスグループのおもな取り組み	期待される変化 (あるべき姿)	KPI (2030年度の指標)	2030年度目標	2022年度実績	おもに関連するSDGs
食と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 健康に寄与する食の提供</li> <li>2 モス食品安全基準などの運用</li> <li>3 商品・サービスの価値向上</li> <li>4 食育の推進</li> </ul>	商品及び情報提供によるお客さまの健康への寄与	「モスの生野菜」の取り組みを通じ、野菜摂取量の目標 (成人1日350g) 達成に貢献	-	-	
	食に関する新しい価値の提供	「グリーンカテゴリー (プラントベース) 商品」の年間販売数	500万食	183万食		

## モスグループのおもな取り組み

食と健康の詳細は WEBサイトをご覧ください。

### 健康に寄与する食の提供

「医食同源」の考えのもと、1日に必要とされる野菜摂取量350g<sup>※</sup>を意識した商品開発に取り組んでいます。モスバーガーで使用される生野菜はすべて国産で、全国112産地の生産者、7社のモスファームと協力し合い、おいしくて安全な「モスの生野菜」を提供しています。



※「健康日本21」(厚生労働省)に定める成人1日あたりの野菜の平均摂取量の目標値。

### モス食品安全基準などの運用

モスでは、HACCPに準じた衛生管理に加え、独自の食品安全マネジメントシステム「モス食品安全基準」を構築し、運用を行っています。この基準を遵守し、HACCP教育を受けた指導員による店舗総合衛生監査を全店で実施することで、安全・安心でおいしい商品をお届けします。

### 商品・サービスの価値向上

2002年に「低アレルゲンメニュー」を販売して以来、幅広いお客さまに向けた商品展開を進めています。2020年からは「MOS PLANT-BASED」シリーズとして、原材料に動物性食材や五臓を使用しない「グリーンバーガー」などを開発し、全国で販売しています。



### 食育の推進

モスでは、子どもたち自身が食の楽しさと大切さをさまざまな観点から学び、考える「モスの食育プログラム」を多角的に展開しています。健全な心と身体、豊かな人間性を育むお手伝いをする事で、食の大切さを未来へ受け継いでもらいたいと考えています。



## マテリアリティ 2.店舗と地域コミュニティ

### 環境認識

- ・テイクアウト需要の増加による中食の台頭
- ・共働き世帯や一人世帯の増加による生活スタイルの変化
- ・自然災害による店舗運営への影響
- ・消費者の行動の変化と多様化するニーズ

### リスク

- ・店舗における事件・事故やコンプライアンス違反などによる、お客さまと店舗メンバーに対する安全管理上の問題発生及び営業停止
- ・店舗の営業活動の短縮や停止による地域社会・お客さまからの信頼喪失
- ・FCシステムにおけるトラブルやオーナー高齢化による事業承継の停滞

### 機会

- ・お客さまと店舗メンバーの安全管理徹底とお客さまの声の積極的活用による信頼されるブランドの確立
- ・地域コミュニティとしての飲食店の存在価値向上
- ・雇用の創出による地域経済への貢献

テーマ	モスグループのおもな取り組み	期待される変化(あるべき姿)	KPI(2030年度の指標)	2030年度目標	2022年度実績	おもに関連するSDGs
店舗と地域コミュニティ	①地域に密着した店舗運営 ②多様化するニーズに合わせた店舗開発 ③店舗の地域貢献活動の推進	店舗品質向上及び売上の向上	顧客満足度調査活用度スコアの向上*	-	16.3回	8 働きがい、経済成長 11 持続可能な消費生活 17 パートナーシップ
		地域コミュニティの活性化とエンゲージメント強化	モスバーガー共栄会全20支部での地域密着活動の実施	-	全支部で実施(実績68件)	

※ 顧客満足度調査確認サイトへのアクション数

## モスグループのおもな取り組み

店舗と地域コミュニティの詳細はWEBサイトをご覧ください。



### 地域に密着した店舗運営

モスの「FVC(フランチャイズ・ボランティア・チェーン)」\*は、オーナー自身の主体性を尊重しているところが特徴で、日本全国の加盟店オーナー約400名は、地域活性化や地域貢献に取り組み、地域の方に応援してもらえるお店をつくることを目標にしています。



※ 本部と加盟店がつながる「FC(フランチャイズチェーン)」、加盟店同士がつながる「VC(ボランティアチェーン)」、この二つのつながりを併せ持つモス独自のフランチャイズシステム。

### 多様化するニーズに合わせた店舗開発

オフィス街やロードサイド、フードコートといったさまざまな立地に合った店舗開発に加え、お客さまの利用動機に合わせた店舗や業態の開発を進めています。店舗フォーマットを駆使して、お客さまにもっと近くに感じていただけるように多業態化を推進しています。



### 店舗の地域貢献活動の推進

おいしくて体に良い商品を召し上がっていただきながら、心のやすらぎを感じていただけるお店をつくる。そんなモスの使命を実現するために「モスバーガー共栄会」ではHDC活動\*が行われ、地域の特色に合わせた取り組みで、お客さまに愛される店舗を目指しています。

※ Hospitality, Delicious, Cleanlinessの頭文字をとった、「モスの心」を具現化するための活動です。

## マテリアリティ 3.人材育成と支援

### 環境認識

- ・働き方への社会的要請の高まり
- ・テレワークなど柔軟な働き方への対応
- ・人材の多様性に対する関心の高まり
- ・健康経営の推進
- ・少子高齢化による労働人口の減少、人材不足や人件費の高騰

### リスク

- ・労働基準法の法令違反、ハラスメント、社内ルールからの逸脱などによる働きがいやモチベーションの低下とそれに起因する優秀な人材の流出と人材確保困難
- ・獲得競争激化による人件費の高騰
- ・組織力や帰属意識、労働生産性の低下

### 機会

- ・柔軟な働き方の推進による、多様性があり健康で安全な職場や働きがいのある会社の実現
- ・優秀な人材の確保と労働生産性の向上による会社の持続的成長

テーマ	モスグループのおもな取り組み	期待される変化(あるべき姿)	KPI(2030年度の指標)	2030年度目標	2022年度実績	おもに関連するSDGs
人材育成と支援	①健康経営 ②人材育成、能力開発、キャリア形成、コミュニケーションの強化 ③メンバーの多様性の確保、女性活躍推進 ④心と設備のバリアフリー推進 ⑤人権の尊重	一人ひとりの成長と活躍の実現	従業員エンゲージメントの向上*	上位20%	-	3 働きがい、経済成長 4 質の高い教育をみんなに 5 働きがい、経済成長 8 持続可能な消費生活 10 人や国の不平等をなくそう 17 パートナーシップ
		ダイバーシティ&インクルージョンの実現	男女賃金格差の解消	-	60.1%(全従業員)	
			女性管理職比率	30%	20.5%	
			男性育児休業取得率	85%	50.0%	

※ 従業員満足度調査(Wevox)総合スコアの業界水準比較

## モスグループのおもな取り組み

人材育成と支援の詳細はWEBサイトをご覧ください。



### 健康経営

健康経営を戦略的な施策の一つとして位置付け、2022年度に「モスフードサービス健康宣言」とその推進体制及び戦略マップを策定・開示しました。「健康相談室」や「メンタル相談窓口」の開設など、メンバーの健康を推進するためにさまざまな取り組みを行っています。

### 人材育成、能力開発、キャリア形成、コミュニケーションの強化

モスで働く一人ひとりが自分の夢を実現させてほしいという思いのもと、さまざまな教育・研修制度を充実させています。集合研修・通信教育・外部講習などの幅広い研修や教育活動を通じて、メンバーの成長を支えながら、活躍する人材の育成と定着を図っています。

### メンバーの多様性の確保、女性活躍推進

モスでは、本社・店舗において女性やシニア、外国人、障がい者など多様な人材の雇用を積極的に行っています。特定技能制度を活用した「ベトナム カゾク」によるベトナム人社員も増え、社内のさまざまな場所で、多様なバックグラウンドを持つメンバーが活躍しています。

### 心と設備のバリアフリー推進

モス本社では、特例子会社モスシャインのチャレンジメイト(障がいのあるメンバー)と本社メンバーが同じフロアで働いています。一緒に働くことでコミュニケーションをとり、誰もがいきいきと働き、バリアのない風通しの良い環境づくりの実現に取り組んでいます。



### 人権の尊重

モスでは従来、「モスグループ行動規範」で人権配慮を掲げてきました。世界的に人権問題への関心が高まる中で、2021年度に「モスグループ人権方針」を策定。持続可能な事業活動を行う企業として、国際的な原則に基づいた人権尊重の取り組みを進めています。



マテリアリティ **4.地球環境**

**環境認識**

- ・脱プラスチック、脱炭素などの推進
- ・食品ロスに対する消費者の関心の高まり
- ・SDGs(持続可能な開発目標)の浸透と消費行動の変化
- ・異常気象の頻発化・激甚化

**リスク**

- ・気候変動による調達リスクの増加
- ・(炭素税など)環境関連法規制強化によるコスト上昇
- ・植物由来の代替肉の普及による畜肉製品の需要低下

**機会**

- ・十分な気候変動対応による企業価値の向上
- ・代替肉市場の拡大に伴うプラントベース商品の売上向上

テーマ	モスグループのおもな取り組み	期待される変化(あるべき姿)	KPI(2030年度の指標)	2030年度目標	2022年度実績	おもに関連するSDGs
地球環境	①温室効果ガスの排出削減 ②プラスチックと廃棄物対策 ③生物多様性の保全 ④エコマーク「飲食店」認定を活用した環境対応	脱炭素社会の実現	CO <sub>2</sub> 排出量の削減(2013年度比、スコープ1+2)	46%	35.7%	7 気候変動、12 責任ある消費と生産
		プラスチック使用量の削減	お客さまに提供する使い捨て製品における、環境配慮型製品の比率	100%	64.1%	13 気候変動、14 海洋資源、15 陸域生態系

**モスグループのおもな取り組み**

地球環境の詳細はWEBサイトをご覧ください。



**温室効果ガスの排出削減**

TCFDの提言に賛同するとともに、それに沿った気候変動のシナリオ分析を行い、その対応について企業サイトで公開しています。店舗独自の取り組みとして、「グリーンカーテン」を設置し、省エネに役立けると同時にお客さまとのコミュニケーションを促進しています。

**プラスチックと廃棄物対策**

飲食業では欠かせない使い捨てのプラスチック製品は、環境配慮型製品比率の向上を目標としています。モスバーガー店舗では、国産非食用米25%を配合したバイオマスプラスチック「ライスレジン®」製のテイクアウト用スプーンとフォークを使用しています。



**生物多様性の保全**

生物多様性の保全を目的として、モスバーガーの商品を入れる紙製パッケージには環境に配慮した紙を使用しています。「モスの生野菜」は、食品安全だけでなく環境保全に関する項目を含む「MOS-GAP点検」で契約産地の管理状況を確認しています。

**エコマーク「飲食店」認定を活用した環境対応**

店舗における環境配慮の取り組みにより、国内モスバーガー全店は、エコマーク「飲食店」の6つの評価カテゴリーすべてで認定されました。また、独自の環境マネジメントシステム「MOS-EMS」の運用により、持続可能な事業活動の実現に取り組んでいます。



エコマーク認定店舗 国内モスバーガー全店

**気候変動への対応(TCFD対応)**



気候変動への対応の詳細は、WEBサイトをご覧ください。

モスグループは、気候変動に関するリスクと機会を重要な経営課題の一つと認識しており、TCFD\*に賛同するとともに、その提言に沿った「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について情報開示を行います。

\*TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)

気候変動関連財務情報開示タスクフォースは、企業が気候変動への対応を経営の長期的リスク対策及び機会の創出として捉え、投資家などに向けた情報開示や対話を促進することを目指しています。



**ガバナンス**

当社では、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクに対し、経営に関する重要事項について十分に審議のうえ、的確かつ迅速な意思決定ができるよう、原則として月1回開催の取締役会のほか、取締役を中心とした経営会議を随時行っています。

気候変動を含むモスグループのマテリアリティ(重要課題)への対応においては、経営会議メンバーを委員とするサステナビリティ委員会を設置し、気候変動リスク対策の取り組み状況について審議・検討を行います。また、その内容について取締役会に報告することで、取締役会が気候変動リスクに対する監督を行う仕組みとしています。

**リスク管理**

当社は、全社的な内部統制システムの整備、気候変動関連も含めたリスク及びクライシスのマネジメント、ならびにコンプライアンス体制を推進する実働組織として、リスク・コンプライアンス委員会を設置しています。毎月1回開催する同委員会は、取締役社長を最高責任者、担当取締役を統括責任者とし、主要リスクを主管する各部門の部門長及び子会社の社長を委員に、リスク情報を管理している部門の部門長をオブザーバーに加え、リスクマネジメント部門の部門長を委員長として構成し、その内容は取締役会に報告しています。

また、環境・社会・ガバナンス(ESG)の観点から事業におけるマテリアリティ(重要課題)を特定しました。これにより、サステナビリティ経営を通じてさらなる企業価値の向上を推進していきます。

**戦略**

当社では、気候変動シナリオ分析を実施し、事業活動に影響を及ぼすリスク・機会の重要度を評価した結果、**(1)炭素税の導入に伴う原材料価格の上昇**  
**(2)プラスチックの代替素材への変更に伴うコストの増加**  
**(3)消費者の行動の変化**  
**(4)異常気象の頻発化・激甚化**の4項目を事業に大きく影響を及ぼす可能性がある重要なリスク・機会として判断しました。

これらの気候変動の重要なリスク・機会は、事業の戦略や財務に影響を及ぼすため、当社の戦略レジリエンス(強靭性)に組み込んでいきます。

\*シナリオ分析と事業への影響評価の詳細は当社企業サイト参照。

**指標と目標**

事業におけるマテリアリティ(重要課題)の一つとして「地球環境」を特定しています。環境負荷の低減対策として、「温室効果ガスの排出削減」と「プラスチックと廃棄物対策」を指標・目標としています。

中期的な温室効果ガス排出量削減目標として、スコープ1及び2の排出量を2030年度には46%削減(2013年度比)することを目指していきます。2050年度にはカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指します。

温室効果ガス排出量削減の取り組みとして、電気やガスなどの店舗のエネルギー使用量の把握や照明や空調、冷凍・冷蔵庫などの定期清掃や点検に加え、直営店における再エネ電力の試験導入やノンフロン厨房機器のさらなる導入を進めていきます。また、モスバーガー独自の取り組みとして「グリーンカーテン」の設置を継続して促進しています。

プラスチック対策は、2030年度までにお客さまに提供する使い捨て製品における環境配慮型製品比率を100%にすることを目標としています。